

# 27年4月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 4月1日～ 27年4月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
4月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/4月	27/5月	27/6月
入荷動向	国産材製材品	25.0	12.5	12.5
	外材製材品	△ 6.3	6.3	6.3
	その他	7.1	7.1	7.1
販売動向	国産材製材品	△ 31.3	△ 25.0	△ 31.3
	外材製材品	△ 37.5	△ 31.3	△ 31.3
	その他	△ 14.3	△ 28.6	△ 28.6
在庫動向	国産材製材品	37.5	25.0	12.5
	外材製材品	18.8	18.8	6.3
	その他	14.3	14.3	14.3

・製品市場への入荷は、国産品、外材及びその他製材品共3ヵ月連続して総じて増加。

・販売は3ヵ月連続して減少。

・在庫は3ヵ月連続して増加。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		27/4月	27/5月	27/6月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	柱角 KD12×3	△ 37.5	△ 31.3	△ 25.0
	通し柱 12×6	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	桁角	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	母屋角	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	タルキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	間柱	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	加工板	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	ヌキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	平割	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 37.5	△ 25.0	△ 18.8
	柱角 KD12×3	△ 43.8	△ 25.0	△ 18.8
	土台角 10.5×4	△ 37.5	△ 25.0	△ 18.8
	土台角 12×4	△ 43.8	△ 25.0	△ 18.8
	通し柱 12×6	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	△ 12.5	△ 18.8	△ 18.8	
米マツ割物	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8	
北洋エゾマツタルキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 12.5	
北洋アカマツタルキ	△ 21.4	△ 14.3	△ 7.1	

・製品市場の価格は、スギ、ヒノキとも全品目で弱含みで推移。

・カラマツ土台角は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ及び北洋エゾマツ及びアカマツタルキは3ヵ月連続して弱含みで推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・全ての材で入荷増加傾向。販売は国産材製品は供給過多のため価格含めて減少。外材も同様だが回転率は良い。在庫は国産材製品は増加傾向続いている。外材も同様。
- ・スギ羽柄材入荷増加、WW4月に入り入荷増加してきた。販売はビルダー仕事なく減少、防音工事動き出す。アカマツ、WW、米ツガの動き減少。在庫は増加、アカマツ、タルキ増加。
- ・4月は入荷増、5月以降は入荷量を調整する見込み。売れ行き悪し、販売価格が仕入れ価格に限りなく近づいてきている。在庫は4月は増、5月以降調整。
- ・荷動き低迷。春需も伸びず。在庫変わらず。
- ・今月も荷動きは低調、国産材、外材共に悪く、全体的に弱含み。
- ・円安が進んだ分値上がりも激しく、買い手からの人気も薄い。4~5月は市況は悪いままで維持、6月の梅雨前からの動きに期待。
- ・スギは、新築物件の見積もりが少なく現状が続く見込み、一時よりも原木が下がっているが売れ行きは渋い、再来月に注目。ヒノキは原木の値も落ち着いてきたが売れ行き悪い。一部メーカーの投売りもあり製品は下がっている。

(価格動向)

- ・スギ柱角 (KD10.5cm、12.0cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角 (東北グリーン材) 40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角 (東北材) 40,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ (東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱 (KD) 65,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板 (グリーン材) 束2,700円、(KD) 束3,800円、スギヌキ (東北) 40,000円/m<sup>3</sup>、(秋田) 48,000円/m<sup>3</sup>、スギ平割 (プレーナー) 45,000円/m<sup>3</sup>、同 (ラフ) 40,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角90,000円/m<sup>3</sup>、ヒノキ土台角10.5角 (KD) 85,000円/m<sup>3</sup>、ヒノキ12.0土台角90,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角KD65,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ (S) 68,000円/m<sup>3</sup>、(P) 58,000円/m<sup>3</sup>。
- ・スギ柱、桁角で新築、リフォーム等動き悪し。スギ母屋角等低価格、需要が伸びてない。ヒノキは実需が減少し価格は下げ基調。米マツは落ち着いている。北洋エゾ、アカマツタルキは価格据え置き。
- ・スギ単価下落傾向。ヒノキは販売不振、製品・原木共に相場下落。